

令和3年度 福岡市精神保健福祉センター運営協議会 議事録

日時	令和3年8月27日(金) 15:00~16:10
場所	オンライン開催
出席者	九州大学病院精神科神経科 講師 小原 知之 福岡大学医学部 教授 川寄 弘詔 福岡中央公共職業安定所 統括職業指導官 松永 和則 福岡県精神科病院協会 副会長 大村 重成 福岡市精神保健福祉協議会 会長 清成 厚美 西区第1障がい者基幹相談支援センター 管理者 西村 隆之 福岡県精神神経科診療所協会 会長 山田 尚吾 福岡あけぼの会 理事 宮本 政智 福岡県精神保健福祉士協会 代議員 吉田 登志子 こども未来局こども総合相談センター 所長 石井 美栄 教育委員会 指導部長 木下 宏仁 福岡市障がい者就労支援センター 所長 黒田 小夜子
	事務局 福岡市精神保健福祉センター所長，同副所長， 同管理係長，同相談指導係長， 同社会復帰係長，同自殺対策係長
次第	1 開会 2 審議 (1) 福岡市精神保健福祉センターの事業概要及び令和2年度実績報告 (2) 令和3年度事業計画(重点事業)
配布資料	資料1 福岡市精神保健福祉センター 令和2年度 所報 資料2 令和3年度精神保健福祉センター事業計画(重点事業)

(1) 会長選出

福岡大学医学部教授 川寄 弘詔 委員が会長に選出された。

(2) 福岡市精神保健福祉センターの事業概要及び令和2年度実績報告

○委員

23 ページの自殺予防相談について、専門家や医療機関に繋げなければならない数ほどのくらいか。

●事務局

本人の主治医や地域の医院で相談するよう勧めており、センターから専門家や医療機関につなげる件数は月に1件程度である。

○委員

25 ページの自殺予防キャンペーンのコストはどのくらいか。

●事務局

スポットCMは、新型コロナウイルス感染症の影響により観光関連が縮小した福岡市の放映枠を活用したため、費用は実費のみ。全体の費用としても、例年と同程度である。

○委員

11 ページのひきこもり対策推進事業についてだが、新型コロナウイルス感染症の外出制限の影響で、ひきこもりでなかった人も強制的なひきこもり状態になっている状況である。また、ギャンブルも今はオンラインでできる。このような中、コロナがひきこもりやギャンブル依存に与える影響や今後の見通しはどう考えているか。

●事務局

よかよかルームスタッフや家族会の方の話では、コロナ禍以前よりひきこもっていた人の中には、堂々とひきこもることができると前向きにとらえる人もいるようだが、家族と過ごす時間が長くなり家族関係の悪化が懸念されたり、家族会に出向くことができないために孤立し、負担感が増加していたり、また、本人が傍に居るために、オンラインや電話では相談しづらいという家族もいる。家族が孤立しないよう繋がっていくことが必要と考えている。

また、ギャンブル依存については、スマホを利用してギャンブルをした場合、家族にも分からないことや、家族と過ごす時間が延び、家族のストレスとなっていることがあげられる。依存症の回復には、当事者グループや家族会の活動が重要だが、オンライン化にのれない当事者や家族が繋がれなかったり、新しい人たちとつながることが出来ないなどの課題がある。このため、繋がることをアピールすることが大事である。

○委員

33 ページの精神医療審査結果について、コロナ禍の中、医療保護、措置入院の傾向はどうか。

●事務局

医療保護入院、措置入院共に微増程度であり、大きく増えてはいない。

○委員

26 ページの自殺未遂者支援事業のモデル救急病院について、選定した3か所の救急病院の名称は開示できるか。

●事務局

公表はしていない。

○委員

3病院を選んだ観点は、また、どのようなケースが連携されるのか。

●事務局

選定した3病院は精神科の入院病床がない病院である。

3病院に搬送された患者を3病院の連携先の精神科がある病院に繋いでいる。

○委員

22 ページのピアサポートに関するアンケート結果をどのように捉えているか。

●事務局

ピアサポートの認知度がまだまだであると認識した。

○委員

29 ページの新型コロナウイルス関連相談事業の心のケア相談窓口での相談内容はどのようなものか。

●事務局

新型コロナウイルス感染症そのものや、失業や収入の減少に関すること、環境の変化、職場や親類等人間関係への不安や不満、また、マスコミの報道に影響されての不安等の相談がある。

○委員

心のケア相談窓口では話を聴くだけで、医療機関に繋ぐことはないのか。

●事務局

くりかえし話を聴くことで落ち着く相談者が多い。また、精神科に通院中の場合は、主治医への相談に繋がるようにしている。

(3) 令和3年度事業計画について (重点事業)

○委員

地域包括ケアシステム検討部会(事業報告の22ページ)が進んでいない。また、ピアサポートは今後どのように活用していくのか。

●事務局

精神障がいに対応した地域包括ケアシステムの専門部会を今年度中に開催予定と聞いている。専門部会開催後、速やかにピアサポートの活用に関するワーキングを開始したい。また、センターではピアサポート講座を開催しており、引き続き支援していく。

○委員

自殺対策事業取組方針の③若年層、児童・生徒への自殺予防に資する教育の推進はどこに力を入れるのか。

●事務局

教育委員会と協力し、子どものSOSに気付く・受け止める研修を教員対象に実施している。20代前後の若者への支援については、自殺予防相談の情報をPRすることで取り組んでいきたい。

○委員

子どもの虐待でもゲームやネット依存が絡んでいる事例が多い。精神保健福祉センターが取り組んでいるのはありがたい。